



おとひめ

令和8年8月28日(金)



いろんな形があるからいいんじゃないの

山口小学校長 吉村 康介

夏休み中、諏訪神社の例祭に参加させていただきました。昨年に続いて2回目の参加でしたが、今年は昨年とは少し違う景色に見えました。その理由は、例祭で使われる花づくりを「TEAM やまぐち KIDS」の子どもたちがボランティアとして手伝ったからです。

花づくりの日、子どもたちは一つ一つ心を込めて作業に取り組んでいました。しかし、出来上がった花は実にさまざまです。大人が作るように整った形ばかりではありません。少しいびつなものもあれば、大きな花も小さな花もあります。

2回目のボランティアに6年生が参加した際、私は総代の林さんに、「子どもたちがお手伝いできたのはよかったのですが、いろいろな形の花ができてしまいました。作り直されるということはありませんでしたか。」と尋ねました。すると林さんは、「いろんな形があるからいいんじゃないの。」と笑顔で答えてくださいました。その言葉を聞いて、私はほっと安心するとともに、とてもうれしい気持ちになりました。子どもたちの個性や発想を、そのまま受け止めてくださる温かさを感じたからです。

そして迎えた例祭当日、今年は舞やお囃子だけでなく、祭りを彩る花の一本一本が鮮やかに映りました。子どもたちと一緒に準備をしたからでしょう。「あの形の花は、あの子を作っていたものだな」などと思いながら、私は一つ一つの花に目を留めていました。

全国では、地域の伝統的な祭りが担い手不足などにより規模を縮小したり、継続が難しくなったりしていると聞きます。そのような中で、子どもたちが地域の文化に関わり、自分たちのできる形で力になることができたことは、とても意義深いことだと思います。「TEAM やまぐち KIDS」の活動が、これからも地域と子どもたちを繋ぐ架け橋として続いていくとうれしいです。

さて、夏休みが終わり、子どもたちが学校に戻ってきました。いわゆる二学期（山口小は前後期制）は、学習や行事を通して子どもたちが大きく成長する時です。しかし、その成長の姿は一人一人違います。得意なことも、苦手なことも、成長する速さもそれぞれです。まさに、子どもたちが作った花と同じです。私たち山口小学校の職員は、子どもたち一人一人のよさや持ち味を大切にしながら、その成長に寄り添っていきたいと考えています。その一方で、子どもたちの可能性を信じ、必要以上の手助けをするのではなく、自ら考え、挑戦し、乗り越える力を育ていくことも大切にしていきたいと思っています。子どもたちがそれぞれの花を咲かせることができるよう、職員一同、夏休み明けからも努力してまいります。

